

討 議

第十九卷第九號 昭和八年九月

地盤軟弱なる大阪港に於ける繫船岸壁
及防波堤工事の特種工法に就て

(第十九卷第五號所載)

會員 工 學 士 山 内 喜 之 助

本會誌第十九卷第五號所載地盤軟弱なる大阪港に於ける繫船岸壁工事に就ての松田氏の論說報告は、永年の綿密なる御調査の結果に依り定められたるもので有益貴重なるものである、深く敬意を表します。

筆者は未だ築港工事に關與せしことなきもので討議に加はる資格なきものである、只拜讀した際に一寸感付いた事を御尋ね致し度いと思つて次の4項を擧げました、御暇に御教示有らんことを願ひます。

1. 岸壁工事土壓軽減用床版以上の裏埋土砂は如何なる材質のものを御使用の見込なるや。
2. 低水位上岸壁背後の排水設備は如何様に計畫されあるや。

排水渠を設くるも漸次泥を以て盈され排水作用不能となるを以て設けざるものなるや、若し然りとせば鐵矢板は殆んど水密なるを以て大雨後の地下水は岸壁裏の水位以上は超過壓力として海底迄岸壁に及ぼすものなるべし。

3. 軟弱地盤上の岸壁工事は力の作用其の他完全なる解法不明なるも大體に於て前記等の大雨後の超過壓力等を考慮し岸壁の安全率は如何程の見込なるや。

4. 水深9米の岸壁で控の長さが27米と設計され有るが、此の長さは如何様にして定められしや。控長は余り長過ぎる程とは思はれざるを以て、土壓軽減用床版を間隔を少し廣くしても控長全部に及ぼす方宜しからずや。